



兄妹そろって日本代表選手に選出

下日本代表に選出され「WORLD LACROSSE 男子20歳以下ラクロス選手権大会」に出場しました。また、妹の小池咲代さん（こいけ さよ・岐阜各務野高校2年）はホッケー女子日本代表として「日中韓3カ国トーナメント2025」に出場しました。兄妹そろって日本代表に選ばれた2人に、それぞれの種目を始めたきっかけから今後の抱負まで、スポーツにける思いを伺いました。

今年、小池貫太さん（こいけ かんた・南山大学3年）がラクロス男子20歳以下

小池 貫太さん（ラクロス）

ラクロスは大学から始めたとのことですが、ラクロスを始めたきっかけは。

第一印象はとにかく心の底から楽しんでプレーしていると思いました。高校時代（硬式野球部に所属）は、楽しくプレーするというよりは結果を常に求められながらプレーをしていたので、そのギャップに心打たれました。体験会に行ってみると野球のフォームとラクロスのシュートフォームがすごく似ていて、野球の経験が新しいスポーツで生かせると感じたのも大きかったです。南山大学で唯一「学生日本一」を本気で目指していると先輩から聞き、心に火が付きしました。



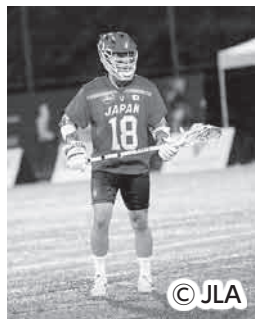
小池さんにとって、ラクロスの魅力はどこにありますか。

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と呼ばれるほど激しいコンタクトを伴うスポーツで、クロスと呼ばれる先端に網がついたスティックを操り、ボールをゴールに入れて得点を競うスポーツです。日本では大学から始める人がほとんどで、高校までやってきたスポーツの特性を生かして日本代表や日本一を目指せることが一番の魅力だと思います。

U20日本代表として出場したことで、自分の中で何か変わったことはありますか。

技術だけでなく「チームのために自分がどう動くか」という意識が強くなりました。代表活動で一緒に戦ったメンバーは全員が自分の役割を理解し、勝つために何が必要かを自分で考えて動いていました。あの環境を経験したことで、今では自分のプレーだけでなく、チーム全体を俯瞰して考えられるようになったと思います。

今後の抱負をお聞かせください。



今の抱負は学生日本一になることです。一昨年はレギュラーになれず、昨年度はレギュラーになりましたが、東海大会ベスト4で終わってしまいました。今年は一年間を通して個人としてもチームとしても大きく成長できた一年だと感じているので、何とんでも日本一になりたいと思います。

小池 咲代さん（ホッケー）

小学5年生で「岐阜県ジュニアアスリート育成プロジェクト」のメンバーに選ばれ、さまざまなスポーツを体験したと思います。その中でホッケーを選んだ理由は何ですか。

スティックを持ってボールを追いかけるスポーツが単純に楽しかったからです。走りという自分の長所も生かされたことと、チームスポーツで仲間と一緒にがんばる所にも魅力を感じ、それまでは空手をやっていましたが、（全国大会優勝経験あり）、小学6年生から本格的に始めました。



中学からは、ホッケーの盛んな各務原市の学校へ進学されましたね。

多治見市の中学校にはホッケー部がなかったため、引越しをして各務原中央中学校に通いました。小学校の友達と別れることはつらかったですが、ホッケーを続けるために決断しました。今となっては、ホッケーに集中できる環境を作ってくれた両親に感謝しています。

日本代表に選ばれるために何か特別に頑張っていることはありますか。

日本代表だからといって特別意識していることはありませんが、岐阜各務野高校ホッケー部の一員として部活動の練習を頑張っています。練習には辛いこともたくさんありますが、チームの勝利のためと、自分の将来の目標のためにチームのみんなと励ましあいながら切磋琢磨しています。

自分の将来の目標！ぜひそれをお聞かせください。

今回選ばれたのは、日本代表候補生です。候補生から正式な日本代表メンバーに選ばれるにはまだまだ実力が足りていないと実感しています。もっと努力して「さくら JAPAN」に入れるように、そして「さくら JAPAN」のメンバーとしてオリンピック出場の夢を叶えられるように、これからも頑張ります。



岐阜県民スポーツ大会が開催されました

第17回岐阜県民スポーツ大会が開催され、多治見市選手団として239人を派遣しました。今年は飛騨地区の開催のため、各協会とも選手の派遣に苦慮しましたが、出場したみなさんは普段の練習の成果を存分に発揮されていました。

種目別ではアーチェリーが総合準優勝に輝き、重厚なカップを持ち帰りました。

バレーボール競技▶

